

(別添資料5)

# 40通りのケースについて

法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、この標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっています。

同校種の統合を考える際は、学級数を「12学級以上18学級以下」、  
異校種の統合を考える際は、児童生徒数を「600人規模」  
を目指すことを考えていきます。

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

1. 二小廃校
2. 一色廃校
3. 山小廃校
4. 二中廃校
5. 西中廃校

5つのケース  
がある

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 1. 二小廃校

(1) 二中へ移転

(2) 一色へ移転

(3) 山小へ移転

(4) 西中へ移転

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 1. 二小廃校

(1) 二中へ移転（2035年566人）

グラウンドが狭い。

一色小が単級になる。（2020年～）

(2) 一色小へ移転（2030年⑱）

スクールバスが必要になる。

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 1. 二小廃校

### （3）山西小へ移転（2035年⑱）

スクールバスが必要になる。

何故遠方へ移転する合理性に欠ける。

2つの小学校の規模の違いが大きい。

一色小が単級になる。（2020年～）

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 1. 二小廃校

（4）西中へ移転（2030年594人）

スクールバスが必要になる。

何故遠方へ移転する合理性に欠ける。

一色小が単級になる。（2020年～）

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 2. 一色廃校

(1) 山小へ移転

(2) 二小へ移転

(3) 二中へ移転

(4) 西中へ移転

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 2. 一色廃校

(1) 山小へ移転（2017年⑱）

2つの小学校の規模が同程度になる。

緑が丘から遠い。

(2) 二小へ移転（2030年⑱）

山小が単級化してしまう。（2035年）



# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 1. 一色廃校

(3) 二中へ移転（2018年581人）

二小抜きの小中一貫校は合理性に欠ける。

(4) 西中へ移転（2017年504人）

学区が広大で不適切。

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 3. 山小廃校

(1) 一色へ移転

(2) 二小へ移転

(3) 西中へ移転

(4) 二中へ移転

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 3. 山小廃校

(1) 一色へ移転（2020年⑱）

2つの小学校の規模が同程度になる。

川匂・茶屋・越地地区が遠距離通学になる。

(2) 二小へ移転（2035年⑱）

スクールバスが必要になる。

何故遠方へ移転する合理性に欠ける。

2つの小学校の規模の違いが大きい。

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 3. 山小廃校

(3) 西中へ移転（2022年596人）

スクールバスが必要になる。

一色小抜きの小中一貫校は合理性に欠ける。

(4) 二中へ移転（2030年544人）

二小抜きでの小中一貫校は合理性に欠ける。

# I 統廃合(5校➡4校)ケース

## 4. 二中廃校

(1) 西中へ移転

(2) 二小へ移転

(3) 一色へ移転

(4) 山西へ移転

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 4. 二中廃校

(1) 西中へ移転（2017年⑱）

通学するには困難な地域が多い。  
部活動の指導者問題が改善される。  
二小を二中に移転することもできる。

(2) 二小へ移転（2030年594人）

グラウンドが極めて狭い。

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 1. 二中廃校

（3）一色へ移転（2018年581名）

グラウンドが若干狭い。

一色小学校が単級。（2020年～）

二小が二中に移転することも可能。

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 1. 二中廃校

（4）山西へ移転（2035年573人）

西中が移転する方が自然であり、合理性に欠ける。

二小が二中に移転することも可能。



# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 5. 西中廃校

(1) 山西へ移転

(2) 二中へ移転

(3) 一色へ移転

(4) 二小へ移転

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 5. 西中廃校

(1) 山西へ移転（2022年596人）

一色小が単級になる。（2020年～）

(2) 二中へ移転（2022年⑰）

一色小が単級になる。（2020年～）

部活動の指導者問題が改善される。

# I 統廃合（5校➡4校）ケース

## 5. 西中廃校

### (3) 一色へ移転

山小抜きの小中一貫教育校は合理性に欠ける。

### (4) 二小へ移転

西中と二小との小中一貫教育は合理性に欠ける。

## Ⅱ 統廃合(5校<sup>👉</sup>3校)ケース

- |    |   |   |    |   |    |     |   |   |    |   |    |
|----|---|---|----|---|----|-----|---|---|----|---|----|
| 1. | 山 | ・ | 二中 | ・ | 西  | 2.  | — | ・ | 二中 | ・ | 西  |
| 3. | — | ・ | 山  | ・ | 西  | 4.  | — | ・ | 山  | ・ | 二中 |
| 5. | 二 | ・ | 二中 | ・ | 西  | 6.  | 二 | ・ | 山  | ・ | 西  |
| 7. | 二 | ・ | 山  | ・ | 二中 | 8.  | 二 | ・ | —  | ・ | 西  |
| 9. | 二 | ・ | —  | ・ | 二中 | 10. | 二 | ・ | —  | ・ | 山  |

10通りの  
パターン  
がある。

## Ⅱ 統廃合 (5校 $\rightarrow$ 3校) ケース

1. 山・二中・西
2. 一・二中・西
3. 一・山・西
4. 一・山・二中
5. 二・二中・西
6. 二・山・西
7. 二・山・二中
8. 二・一・西
9. 二・一・二中
10. 二・一・山

中学校  
0校は  
不可能。

## Ⅱ 統廃合 (5校 $\rightarrow$ 3校) ケース

1. 山・二中・西
2. 一・二中・西
3. 一・山・西
4. 一・山・二中
5. 二・二中・西
6. 二・山・西
7. 二・山・二中
8. 二・一・西
9. 二・一・二中
10. 中学校0校は不可能

中学校  
0校は  
不可能。

## Ⅱ 統廃合（5校➡3校）ケース

1. 山・二中・西：小を1校にできるのは2050年以降
2. 一・二中・西：小を1校にできるのは2050年以降
3. 一・山・西：中を1校にできるのは2022年以降
4. 一・山・二中：中を1校にできるのは2022年以降
5. 二・二中・西：小を1校にできるのは2050年以降
6. 二・山・西：中を1校にできるのは2022年以降
7. 二・山・二中：中を1校にできるのは2022年以降
8. 二・一・西：中を1校にできるのは2022年以降
9. 二・一・二中：中を1校にできるのは2022年以降

## Ⅱ 統廃合（5校➡3校）ケース

1. 山・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
2. 一・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
3. 一・山・西：中学校区を全町にすることができる。
4. 一・山・二中：中学校区を全町にすることができる。
5. 二・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
6. 二・山・西：中学校区を全町にすることができる。
7. 二・山・二中：中学校区を全町にすることができる。
8. 二・一・西：中学校区を全町にすることができる。
9. 二・一・二中：中学校区を全町にすることができる。



## Ⅱ 統廃合（5校➡3校）ケース

1. 山・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
2. 一・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
3. 一・山・西：二小を移転するメリットが少ない
4. 一・山・二中
5. 二・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
6. 二・山・西：部活動の顧問や部員数の状況改善。
7. 二・山・二中：部活動の顧問や部員数の状況改善。
8. 二・一・西：部活動の顧問や部員数の状況改善。
9. 二・一・二中：部活動の顧問や部員数の状況改善。

## Ⅱ 統廃合（5校➡3校）ケース

1. 山・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
  2. 一・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
  3. 一・山・西： 二小を移転するメリットが少ない
  4. 一・山・二：
  5. 二・二中・西 2050年までには何か手だてが必要
  6. 二・山・西：
  7. 二・山・二中
  8. 二・一・西：
  9. 二・一・二中
- 西中が一色小、山西小との小中一貫教育校である必要がある。

## Ⅱ 統廃合（5校➡3校）ケース

6. 二・山・西：  
二小を二中に移転することができる。  
地域再生の一色小が活かさない。
7. 二・山・二中：  
西中跡地の再利用が困難  
地域再生の一色小が活かさない。
8. 二・一・西：  
二小を二中に移転することができる。  
西中を山小に移転することができる。
9. 二・一・二中：  
山小跡地を活用できる。  
西中跡地の再利用が困難

## Ⅱ 統廃合（5校➡3校）ケース

### 6. 二・山・西 のケース

#### 【小学生】

2つの小学校の規模が同程度になる。

緑が丘から遠い。

#### 【中学生】

通学するには困難な地域が多い。

部活動の指導者問題が改善される。

二小を二中の場所に移転することもできる。

## Ⅱ 統廃合（5校➡3校）ケース

### 8. 二・一・西 のケース

#### 【小学生】

2つの小学校の規模が同程度になる。

川匂・茶屋・越地地区が遠距離通学になる。

#### 【中学生】

通学するには困難な地域が多い。

部活動の指導者問題が改善される。

二小を二中の場所に移転することもできる。

## Ⅱ 統廃合（5校<sup>👉</sup>3校）ケース

5. 二・二中・西、7. 二・山・二中、9. 二・一・二中  
のケース

→ 二・二中と1つの小中一貫教育校にする。

2018年以降



一色 + 山小 = 18クラス以下になる。

2035年（599人）以降、同じ校舎でも可能

# Ⅲ 統廃合（5校<sup>👉</sup>2校）ケース

- |    |      |     |      |
|----|------|-----|------|
| 1. | 二・山  | 2.  | 二・一  |
| 3. | 二・二中 | 4.  | 二・西  |
| 5. | 山・一  | 6.  | 山・二中 |
| 7. | 山・西  | 8.  | 一・二中 |
| 9. | 一・西  | 10. | 二中・西 |

10通りの  
パターン  
がある。

# Ⅲ 統廃合 (5校 → 2校) ケース

- |    |      |     |      |
|----|------|-----|------|
| 1. | 二・山  | 2.  | 二・一  |
| 3. | 二・二中 | 4.  | 二・西  |
| 5. | 山・一  | 6.  | 山・二中 |
| 7. | 山・西  | 8.  | 一・二中 |
| 9. | 一・西  | 10. | 二中・西 |

小・中  
それぞれ  
0校は  
不可能



# Ⅲ 統廃合（5校<sup>👉</sup>2校）ケース

- |    |                      |     |                      |
|----|----------------------|-----|----------------------|
| 1. | <b>不可能</b>           | 2.  | <b>不可能</b>           |
| 3. | 二・ <small>二中</small> | 4.  | 二・ <b>西</b>          |
| 5. | <b>不可能</b>           | 6.  | 山・ <small>二中</small> |
| 7. | 山・ <b>西</b>          | 8.  | 一・ <small>二中</small> |
| 9. | 一・ <b>西</b>          | 10. | <b>不可能</b>           |

小を1校にできるのは2050年以降で、小中一貫校を2校にすることを考え、学区を再編成する必要がある。

# Ⅲ 統廃合（5校<sup>👉</sup>2校）ケース

- |    |   |   |    |     |    |   |    |
|----|---|---|----|-----|----|---|----|
| 1. | 二 | ・ | 山  | 2.  | 二  | ・ | 一  |
| 3. | 二 | ・ | 二中 | 4.  | 二  | ・ | 西  |
| 5. | 山 | ・ | 一  | 6.  | 山  | ・ | 二中 |
| 7. | 山 | ・ | 西  | 8.  | 一  | ・ | 二中 |
| 9. | 一 | ・ | 西  | 10. | 二中 | ・ | 西  |

好立地な場所  
広さを考える

2030年1336人  
2035年1165人

## Ⅱ 統廃合(5校➡1校)ケース

### 児童生徒数の推計

2025年：1577人

2030年：1336人

2035年：1165人

2040年：1075人

2045年：992人

2050年：891人

2055年：772人

2060年：659人

小中一貫教育校1校を考える。

# まとめ

- 施設一体型の小中一貫教育校とするためには2035(H47)年頃にならないと収容できない。よって当面は施設分離型で検討していくことになる。

2023	二宮小	6	5	4	3	2	1	計
H35	学級数	3	3	3	3	3	3	18

↓

二宮中	3	2	1	計
学級数	3	4	3	10

→

28

2023	一色山西	6	5	4	3	2	1	計
H35	学級数	3	3	2	3	3	3	17

↓

二宮西中	3	2	1	計
学級数	3	2	2	7

→

24

# まとめ

- 2022年の中学生は、2017年の小学校2,3,4年生である。中学校進学時に私立中学校に進む生徒がいることを考えると、2022年(平成22年)には1年、2年、3年ともに5クラス編成となることも予想されます。普通級が15クラスならば、現在の二宮中でも、二宮西中でも設備的な面では収容は可能。

中学校を1校にした場合の学級数

西暦	平成		3年	2年	1年	計
2022	(H34)	生徒数	213	202	206	621
		学級数	6	6	6	18
2023	(H35)	生徒数	202	206	196	604
		学級数	6	6	5	17
2024	(H36)	生徒数	206	196	194	596
		学級数	6	5	5	16
2025	(H37)	生徒数	196	194	184	574
		学級数	5	5	5	15